

農林水産省 東北農政局 秋田県拠点

秋田ニュース

Stationed at Akita Prefecture Area,
Tohoku Regional Agricultural Administration Office

飼料用のお米を作りますか？

我が国の米の消費量は年々減少し、近年主食用米の需要量は10万t/年程度ずつ減少しているため、需要に応じた米生産がとても重要になっています。現在、水田を麦・大豆・そば等に転作していますが、水はけなどの問題でうまく作れない場合もあります。一方、トウモロコシ、こうりゃん、大麦等の飼料用穀物については、その殆どを輸入に頼っており、価格や供給の安定の観点から飼料自給率の向上が求められています。また、水田は水資源の確保・洪水防止・景観維持など、環境や国土を守る役割も持っています。

そこで、農林水産省では、水田を利用した飼料用米やWCS用稲などの生産を推進しており、畜産農家からは、飼料用米を給餌したものは食味が良くなる等の好評を得ています。平成30年度の飼料用米の生産量は43万tでしたが、今年3月に閣議決定された「食料・農業・農村基本計画」において、飼料用米等の戦略作物の生産拡大が明確に位置づけられ、飼料用米の令和12年度の生産努力目標は70万tに設定されたところです。加えて、今年から、飼料用米の複数年契約（3年以上）に、1万2千円/10aの支援が創設されました。本号では、県内で飼料用米やWCS用稲を給餌している畜産農家の事例と飼料用米多収日本一受賞者をご紹介します。

地域農業の発展につながる飼料用米の取り組み

ポークランドグループ(小坂町)

ポークランドグループは、養豚を中心に事業展開し、年間約15万頭を出荷するほか、加工所やレストラン、たい肥化施設なども経営している大規模農場です。

広い豚舎にバイオベッド(稲わら、もみ殻、木質チップなどを原料とした発酵床)を敷料に使い、BMW(バクテリア・ミネラル・ウォーター)技術で尿を自然浄化した生物活性水を薄めて豚に与えたり、豚のシャワー用に使ったりと、アニマルウェルフェアと健康に配慮した飼育を行っています。また、HACCP、JGAP、ISO14001の認証取得など作り手が見える農業に取り組んでいます。

不足する秋田県産飼料用米

現在、年間約1万トンの飼料用米が必要ですが、秋田県産だけでは足りないのので他の東北産で補っています。販売先からは「できるだけ秋田県産米を使った商品を！」という強い要望も受けていますが、秋田県内や東北各県の稲作農家が主食用米の生産指向が強まって、飼料用米が減少することになれば、調達先を全国に拡大するか、飼料用米の配合割合を減らさざるを得なくなりますので、そうならないことを望んでいます。

飼料用米を30%配合

一般に豚用の配合飼料は、輸入トウモロコシなどの穀類が中心ですが、ポークランドグループでは、自給率の向上と休耕田の解消・地域活性化等地域への貢献を念頭に、飼料用米を組み入れた配合飼料を与えています。

飼料用米は輸入トウモロコシに比べてコストアップになりますが、肉質が米由来のオレイン酸系の脂質となり、食味はあっさりとして脂身が甘くなります。飼料用米の配合割合は、当初10%でしたが、配合割合、食味及びコストを勘案して、30%まで拡大しました。

トピック

平成30年度「飼料用米活用畜産物ブランド日本一※」において、ポークランドグループの「日本のこめ豚」、「米っこ桃豚」が農林水産大臣賞を受賞しました。

※飼料用米を活用した畜産物の高付加価値化の取組を実践している先進的かつ他の模範となる畜産事業者等を表彰



バイオベッドを敷き詰めた豚舎 (写真: ポークランドグループHPから)



ポークランドグループ
代表 豊下勝彦さん



細越牧場代表
細越 真利雄 さん

稲WCSは嗜好性に優れ想像以上の効果

細越牧場(三種町)

細越牧場は、経産牛約180頭を飼養している県北で最大規模の酪農家で、牛の血统よりも、給餌内容を工夫することで良質な生乳の生産に努めています。今般新しい畜舎が完成し、これからさらに規模拡大を図ろうとしているところです。

乳牛は、食滞(胃もたれ)に悩まされることが多いのですが、穂の少ない稲のWCSを給餌することにより、消化不良を防止することができるので、乳量が多くなって乳糖も高い数値を示す、嗜好性に優れるなど、想像以上の効果が上がっています。

稲WCSの採用で 安定的で高品質な生乳生産

稲WCSを採用してからは、乳量安定し、1頭あたり年間1万ℓ(1日平均30ℓ以上)の生産が可能になりました。

今年のWCS用稲の栽培委託面積は37haを予定していますが、将来的には60haを目標にしています。WCS用稲の品種は、茎葉の割合が高く穂が少ない「つきすずか」で、種子代が高いため、栽培を委託している農家に種子代の一部を助成しています。

また、稲はタンパク質含有量が少ないため輸入牧草のアルファルファも給餌していますが、今後はアルファルファを自ら栽培し、国産に切り替えて行きたいと考えています。

※飼料用米：水田で生産できる飼料用穀物で、とうもろこしとほぼ同等の栄養価を有する。もみや玄米部分を利用する。
 ※稲WCS(ホール・クロップ・サイレージ)：水田で生産できる良質な粗飼料。完熟前の穂、茎、葉を全て利用する。

畜産クラスター事業の活用で 規模拡大と施設を充実

規模拡大に積極的に取り組んでいますが、施設の増設や増頭には多くの資金が必要です。今般、畜産クラスター事業を活用して施設の建設や機械設備を整備しました。



建設中の150頭用畜舎(令和2年2月撮影)

紹介します！ 令和元年度「飼料用米多収日本一」



このコンテストは、飼料用米生産農家の技術水準の向上を推進するため、先進的で他の模範となる経営体を表彰し、その成果を広く紹介するもので、今回、「単位収量の部受賞者」6名中3名が秋田県内からとなりました！

○全国農業協同組合中央会会長賞



出島 博昭 さん
(大館市)

単収：**881kg/10a**
(地域の単収との差)
310kg/10a
(品種)秋田63号
(作付面積)約1.8ha

- ◇晩生品種で主食用との作業を分散
- ◇土壌改良材を投入して土作り

- ・飼料用は自己施設、主食用はJAの施設利用でコンタミ防止
- ・JAの展示ほ場として提供

○協同組合日本飼料工業会会長賞



上田 隆 さん
(横手市)

単収：**819kg/10a**
(地域の単収との差)
223kg/10a
(品種)ふくひびき
(作付面積)約2.3ha

- ◇密植栽培で茎数を確保
- ◇基肥に安価な鶏糞ペレットを施用

- ・耕畜連携で畜産農家に稲わら・もみ殻を提供
- ・フレコン出荷でコストダウン

○日本農業新聞賞



小松田 光二 さん
(横手市)

単収：**867kg/10a**
(地域の単収との差)
245kg/10a
(品種)秋田63号
(作付面積)約1ha

- ◇疎植栽培で必要育苗箱数を減
- ◇農地バンクを活用してほ場を集約

- ・主要農機具を複数名で共同利用
- ・フレコン出荷でコストダウン

東北農政局 秋田県拠点 地方参事官室

〒010-0951 秋田市山王7-1-5 TEL: 018-862-5611 FAX: 018-862-5340

URL : <http://www.maff.go.jp/tohoku/tiiki/akita/index.html> Eメール(総合窓口) : sanjikan-info-ak@maff.go.jp